

# 家族史編纂センター

サンプル家族史・人物事典・系図

これはサンプルであり、  
地名人名団体名内容等  
すべてフィクションです。

実在の人物、団体、地名等とは一切関係がありません。

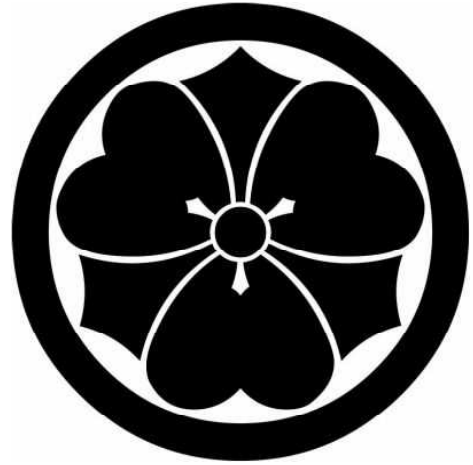
# 家族史 サンプル

# 下総甲山氏

## 家紋

(戦国時代まで) 下がり藤  
(戦国時代以降) 丸に剣方喰  
(副紋)

※ 女紋・旗紋・幕紋などあれば記載。



## 本姓・カバネ

源朝臣

(丙内家芳伸以降) 平朝臣

## 氏族

清和源氏乙田氏族

(丙内家芳伸以降) 桓武平氏沢山流

## 発祥地

下総国乙田郡甲山 甲山城 (現・D 県乙田郡 A 町甲山 甲山駅付近)



初期の家紋

## 成立年月日

478 年頃\*<sup>1</sup>

※ 氏族又は名字の発祥の年月日

## 氏祖

乙田雅康\*<sup>2</sup> (下総乙田氏第 20 代源明康 3 男)

(甲山美作守浅康 (下総乙田氏第 22 代源雅康 3 男。大叔父乙田雅康の養嗣子))

1\* 甲山朝康は乙田植康 (1494 ~ 1530 年) の長弟なので、1500 年代前半と推定した。

2\* 甲山城 (D 県乙田郡 A 町甲山) の築城者・城主

## 主な本拠地

下総国乙田郡甲山（現・D 県乙田郡 A 町甲山 甲山駅付近）

（山科家）下総国荒川郡川中島村山科\*<sup>1</sup>（現・D 県荒川郡乾町大字川中島字山科 42 番地）

（丙内家）下総国荒川郡川中島村丙内（現・D 県荒川郡乾町大字川中島字丙内？番地）

（丁太郎家）下総国荒川郡川中島村丙内（現・D 県荒川郡乾町大字川中島字丙内 122 番地）\*<sup>2</sup>

→ D 県荒川郡乾町大字乾字上川町 30 番地

→大阪府世田市経堂十丁目 131\*<sup>3</sup> のち同丁目 10-8

## 著名な人物

※ 直系尊属については名前列举のみ。傍系で著名な人物についてはここで詳述。

甲山重実：1861 年 9 月 26 日/文久元年 8 月 22 日生～1915 年(大正 4 年)12 月 17 日没。桜蔭義塾等を経て、D 県荒川郡夏川村長（現・乾町）、D 県議会議員及び参事会員、D 県民報社理事、D 県興業銀行設立委員、第 5 回衆議院議員(1898 年(明治 31 年) 3 月 15 日～1897 年(明治 30 年)12 月 25 日、選挙区：D 県第 2 区、立憲政友会所属)、G 県青山郡長、青山町長（初代。現・青山市）、D 県会議員、青山産業株式会社専務取締役、青山新聞社長、青山電気株式会社社長\*<sup>4</sup>、従四位勲四等。

甲山戊保：東方中学校（京北英語学校の後進。現・北京葉中学校・高等学校）第 3 学年修了\*<sup>5</sup>。方喰合資会社代表社員、新田電気株式会社（現・東海電力）専務取締役・同社長、夏川電気工業株式会社（現・東海電力）社長、新田協同株式会社取締役、夏川信託株式会社(1923 年(大正 12 年)、D 県興業銀行頭取(現・芦原銀行)、D 県貯蓄銀行取締役、第 35 代 D 県議会副議長、(新旧)初代乾町長、D 県電燈株式会社監査役(現・東海電力)、荒川電気株式会社監査役\*<sup>6</sup>(現・東海電力)、川中島合資会社設立（現・川中島銀行）、川中島商事株式会社に改称)初代社長。

---

1\* 読みは「さんや」。

2\* 当地は川中島地区の中で「神南」と通称される地区である。

3\* 天保学院編『天保学院卒業生名簿 昭和 17 年版』天保学院、1942 年、541 頁。

4\* 以上、『人事興信録第三版』1911 年、こ 53 頁

5\* 甲山康男『徹頭徹尾』4 頁によれば、天保学院大学卒業とあるが誤り。

6\* 菊丸会『昭和 5 年 9 月末現在 職員名簿 第 6 版』産業出版社、1930 年、177 頁には名がなく、同『昭和 6 年 9 月末現在 職員名簿 第 7 版』同、1931 年、180 頁及び桜田印刷『昭和 7 年度版 茨城県官民職員録』桜田印刷、1931 年、356 頁にはあり、同『昭和 8 年度版 同』同 1932 年には名がないはため、1930 年(昭和 5 年)10 月以降 1932 年(昭和 7 年)12 月 14 日までの間に務めていたと思われる。

甲山康孝\*<sup>1</sup>：1909年(明治42年)12月、東北帝国大学法科大学卒業、法学士\*<sup>2</sup>、G県商工銀行(現・G銀行)を三和支店長\*<sup>3</sup>、同調達部長\*<sup>4</sup>を経て、松山農業株式会社常務取締役\*<sup>5</sup>、北山農業株式会社代表取締役

甲山葵松：1940年(昭和15年)3月25日試験合格により、G帝国大学医学部卒業、医学士\*<sup>6</sup>。専攻は糖尿病学。G大学医学部循環器科学第五講座助教授の時(1972年(昭和47年))東京臨床糖尿病学会(現・公益社団法人東京糖尿病学会)元会長としてブラジル連邦共和国(República Federativa do Brasil)サンパウロ州(Estado de São Paulo)サンパウロ市(São Paulo)で総会を主催\*<sup>7</sup>、同講座第2代教授、G県大学附属病院長(任期：1976年(昭和51年)1月10日～1978年(昭和53年)1月9日)、同大名誉教授。A市北区鹿島5丁目1番地21。肺炎のためA市中央区の病院で2004年11月30日没。

## 支流・分家

山科甲山家

丙内甲山家

甲山丁太郎家

桜田藩士甲山又右衛門雅貞家

甲山内藏人康貞家

## 系図

戸籍系図・荒川系図

※ 系図は巻末又は別冊に掲載することが多い。

---

1\* 甲山康男『この道一筋に』3頁には「G県商工銀行頭取」とあり、爲三郎メモやマツメモもこれに基づいているが、誤記である。また、同4頁には、天保学院大学卒業とあるが1942年までの卒業生(卒業生)が網羅されている天保学院編『天保学院卒業生名簿 昭和17年版』天保学院、1942年には記載ない。「久男」も誤記である。

2\* 東北帝国大学編『東北帝国大学卒業生名簿』東北帝国大学、1936年、12頁。旧規程による卒業。なお、『人事興信録』には「名古屋帝大法科を卒業」とあるが誤記であり、名古屋帝国大学編『名古屋帝国大学卒業生氏名録』名古屋帝国大学、1926年及び同『同〔昭和8年3月末現在〕』同、1933年にも記載はない。

3\* 人事興信所編『人事興信録 第6版』人事興信所、1921年、こ33頁。

4\* 『G県商工銀行史』を要確認。監査役との情報もあるが、同社鑑査役は、法律上は30株以上を有する株主から3名以上を株主総会が選任し任期は2年(G県商工銀行法(明治32年法律第76号)4条、5条2項)とされていたが、50株以上を有する株主から株主総会が選任し任期は2年で再任可能(定款22条)というように定款で持株要件を引き上げていた(G県商工銀行編『G県商工銀行二十年誌』高山啓治、1920年、附録参照)。

5\* 人事興信所編『人事興信録 第14版上』、1943年、こ107頁

6\* G県帝国大学『G県帝国大学一覧(昭和16年)』1941年、365頁によれば、同書昭和11年版ないし14年版、官報1926年06月01日2786号53頁、官報1920年08月03日4954号150頁も参照。

7\* [http://www.jshem.or.jp/modules/meeting/index.php?content\\_id=43](http://www.jshem.or.jp/modules/meeting/index.php?content_id=43)

## 氏神

丸山神社 (D 県荒川郡乾町大字川中島字山手 140 (37.955104, 141.455209))

※ サンプルのため社殿写真は掲載しない。

## 墓所

禅宗\*<sup>1</sup> → 眞言宗大本山山王院華嚴寺墓地 (D 県荒川郡乾町川中島寺下 95-1)

(本家 37.948138, 141.455696)

(丁太郎家 37.948145, 141.455815)

※ サンプルのため墓地写真は掲載しない。

## 菩提所

曹洞宗大本山山王院華嚴寺 (D 県荒川郡乾町川中島寺下 95-1)

天神遺跡<sup>2</sup> (D 県春田市甲山町字天神)

臨済宗安心寺派日吉山中全寺<sup>3</sup> (D 県 E 市大通 2 丁目 28)

眞言宗山王派妙光寺 (現・曹洞宗西全寺) (D 県春田市甲山町字町内 16)

天台宗東清寺 (D 県春田市甲山町字町内 17)

## 歴代当主

甲山宗家 歴代当主

初代 ○○命 (天湯津彦命 10 世孫)

2代 尺持

3代 止禰彦

4代 山造 (のちに止禰彦、13 子)

5代 尺連 (のちに止禰彦)

6代 川直

7代 尺戸自

8代 山宿禰

9代 川隈

10代 勝見花

---

1\* 下総国荒川郡川中島邑神南村文書 (国立資料館所蔵、5547X) 宗門人別帳によれば、江戸期は禅宗であった。

2 春田市埋蔵文化財発掘調査事業団編『天神南遺跡:伝五輪壇殿墓山:甲山第二土地区画整理事業関連:発掘調査報告』D 県春田市教育委員会、1998 年

3 祐義の建立。

- 11代 阿賀沼  
12代 尺襲  
13代 山襲  
14代 道磨  
15代 山櫃  
16代 尺武  
17代 億大人  
18代 國彦  
19代 積治  
20代 治行  
21代 重之  
22代 山磨  
23代 山彦  
24代 山男  
25代 奥山  
26代 山友  
27代 山陸  
28代 山大人  
29代 之積（之行）  
30代 之久  
31代 之國  
32代 之延  
33代 右馬基祐（傍系）  
34代 監物 祐義（基祐の弟）  
35代 主膳祐 宗祐  
36代 淡路守 祺祐  
37代 左近 種祐（傍系）  
38代 美作守 氏祐（信祐）（蘆名満盛の庶子）  
39代 淡路守 頼祐  
40代 甲山主膳誼祐（宣祐・頼實）（傍系）  
41代 美作守 盛實  
42代 美濃守、左近将監 實持  
43代 美作守、左近将監 滋實  
44代 美作守 氏實（盛實）<sup>1</sup>  
45代 将監<sup>2</sup>、左近将監、備前守<sup>3</sup> 隆實  
46代 主水、甚左衛門 茂實

---

1 若松史料では義祐の子、衆臣家譜では滋實の子とする。

2 E市の史料による。

3 衆臣家譜による。

- 47代 勘右衛門、五右衛門、将監 正實
- 48代 平右衛門、甚右衛門 良實
- 49代 莊藏 侍實
- 50代 五右衛門 榮實
- 51代 平次、五右衛門 政實(傍系)
- 52代 五右衛門 因實
- 53代 五右衛門 憲實(傍系)<sup>1</sup>
- 54代 庄藏、五右衛門 正實<sup>2</sup>
- 55代 甲山因實(以下、傍系)
- 56代 甲山清
- 57代 甲山新
- ...

### 山科甲山家 歴代当主

- 初代 甲山雅康
- 2代 甲山相模守朝康 (下総乙田氏第 22 代源康実 3 男。大叔父乙田雅康の養嗣子\*<sup>3</sup>)
- 3代 甲山丹後守康雅
- 4代 甲山若狭守康重
- 5代 甲山禄左衛門雅英
- 6代 甲山左衛門雅重\*<sup>4</sup>\*<sup>5</sup>
- 7代 甲山満実
- 8代 甲山康満

### 丙内甲山家 歴代当主

- 初代 甲山左衛門雅良\*<sup>6</sup> (宗家第 6 代雅重 3 男)
- 2代 甲山与四郎康雅 (雅重=雅清 2 男)
- 3代 甲山将監芳伸 (山科庄太郎 2 男)

---

1 戸籍上は甲山因實の父・五右衛門と記載。

2 戸籍上は甲山因實の伯父・五右衛門と記載。

3\* 『乙田氏三百年史』41 頁及び 44 頁。

4\* 朝康から雅重まで、乙田鎌倉甲山三家之系図、「甲山禄左衛門雅貞」『徳田系譜集』34 卷 76 頁以下及び乾町甲山康満所蔵甲山家系図の 3 系図が若干の名前の相違はあるものの、続柄、官途や妻名がほぼ一致しており、これら 3 系図が後世に相互に書き写したというのでない限り、ほぼ間違いないと判断した。なお、甲山家系図「天」には、相模守晴康という人物があり、筆書きでは晴と朝は誤読の可能性がある文字のため朝康のことだとも考えられるが、晴康までの系図は安佐田氏や大山氏の系図がつぎはぎとなっており、出鱈目と判断した(晴康の孫の代としているものの、「(五)左衛門、又(右)衛門桜田家臣、右兵衛越前和歌山移住」の 3 兄弟の部分は符合している)。

5\* 乙田鎌倉甲山三家之系図では「号左衛門 元和五年川中島村ニ移ル後称讚岐」と記され、雅清は 2 男康雅とともに丙内に住んだとあり、乾町甲山康満所蔵甲山家系図にも同様の記載がある(川中島村への移住を元和 9 年としている)。

6\* 華厳寺住職編甲山家系図では丙内系初代を甲山讚岐としており、乙田鎌倉甲山三家之系図及び乾町甲山康満所蔵甲山家系図では隠居後に 2 男康雅と丙内に移り住んだとあることから、雅重=雅清を丙内家初代とした。



4代 甲山次郎実康

5代 甲山康春

6代 甲山泰作

7代 甲山春男

…

#### 甲山丁太郎家 歴代当主

初代 甲山丁太郎宗重（丙内甲山将監芳伸 2 男）

2代 甲山宗治郎松茂

3代 甲山戌保（以下、傍系）

4代 甲山治宗\*<sup>1</sup>

5代 甲山松次郎

…

#### 甲山爲三郎家 歴代当主

初代 甲山爲三郎（戌保 3 男。以下、傍系）

…

#### 甲山重実家 歴代当主

初代 甲山重実

2代\*<sup>2</sup> 甲山康孝（宗治郎 2 男）

3代 甲山葵\*<sup>3</sup>

---

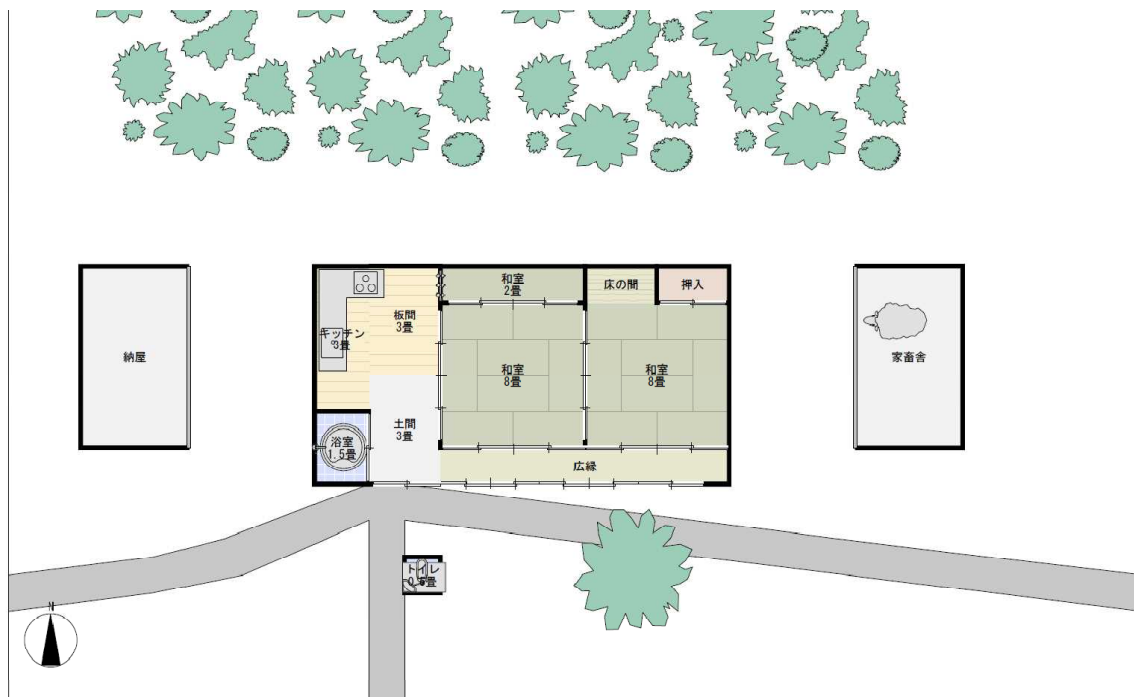
1\* 1940年(昭和15年)天保学院大学法学部政治学科卒業、野村證券を経て、長田商事第2代社長。天保学院編『天保学院卒業生名簿 昭和17年版』天保学院、1942年、541頁。

2\* 華嚴寺先代住職編甲山家系図による。

3\* G県帝国大学『G県帝国大学一覽(昭和16年)』1941年、365頁によれば、1940年(昭和15年)3月25日試験合格により、G県帝国大学医学部卒業、医学士。通信病院院長などを務める。同書昭和11年版ないし14年版、官報1936年05月01日2796号35頁、官報1940年05月03日3994号150頁も参照。

## 敷地と間取り

旧山科甲山邸



## 家史

清和源氏乙田氏族の甲山宗重・甲山重安の兄弟は、荒川郡川中島村の山科、丙内にそれぞれ定住し帰農した。

丙内家は、その所有する高富山に例えて「高富山が崩れても丙内の財は崩れないだろう」というほどの相当な財力を持っていたが、将監芳伸没後、次郎実康は、田圃に引いた水路の高低差を間違えて水が来ないという第一の失敗と、養蚕業をして蚕が病気にかかってしまい川中島川に流したという第二の失敗により甚大な損失をなし、G 県に移住せざるを得なくなった。

丁太郎は新田藩の小姓格（御用商人）となって廻船問屋・方喰屋を経営し、苗字帯刀を許され、庄屋として土地の名士であった。宗治郎も庄屋及び林業・金融業等の傍ら川中島郵便局長であり、丁太郎家は多くの隠居所等を持つなど D 県下随一の資産家であった。戊保は、のちの東海電力や地方銀行・川中島銀行に連なる電力・金融を中心とした多くの事業を興した起業家であり、私財を投じて奥真壁林業地帯・乾高等学校・国道バイパスなど地域の社会基盤を整備し、政治家としても地域振興に尽力するなど、乾町のみならず現代に続く D 県のインフラストラクチャー（産業及び生活の基盤）を作った豪傑である。戊保や重実を中心として、また子孫の多くが天保学院に学んだこともあって、地元のみならず国の政財界とも強い人脈が築かれ、三井財閥や帝京銀行総裁などを輩出

した松沢家などとも姻戚関係にある。  
大正年間に本邸を丙内から上川町に移した。



前列左から〇〇、△△、××…

(甲山宗家所蔵)

## 参考資料

甲山家系図「天」「地」(甲山丁太郎家所蔵)

乙田鎌倉甲山三家之系図(甲山丁太郎家所蔵)

華巖寺住職編甲山家系図(甲山丁太郎家所蔵)

公益財団法人松山博物館所蔵「甲山雅貞系図」『松山平系纂』43巻76頁以下  
『乙田氏一千年史』

D県『職員名簿 第7版』龍陽社、1931年

甲山戊保編『D県興業銀行四十年誌』D県興業銀行1938年

G県商工銀行『G県商工銀行史』1971年

下総国白河郡川中島邑下村文書(国立資料館所蔵5545B文書)

衆議院・参議院編『議会制度百年史 - 衆議院議員名鑑』大蔵省印刷局、1990年。

甲山康男『頑固一徹』甲山康男、1976年(『闘魂』所収)

『大正過去帳 物故人名辞典』東京美術、1973年。

G県新聞社編『G県歴史人物事典』G県新聞社、1993年。

金子郡平・高野雅之編『G 県人名辞書』G 県人名辞書編纂事務所、1914 年。  
人事興信所編『人事興信録』第 4 版、1915 年

# 人物事典 サンプル

# 甲山丙太郎

## プロフィール

※ 顔写真がなく絵巻物がある場合は絵巻物を使用→

氏名	甲山 丙太郎 (こうやま へいたろう)
通称	乙左衛門
生年月日	1849年10月27日/嘉永2年9月12日
本姓・カバネ	桓武平氏沢山流 平朝臣
家・代	甲山宗治郎家 22代
国籍	日本
出生地	日本 下総国荒川郡丙内村 (現・D県荒川郡乾町)
没年月日	1924年(大正13年)9月16日午前7時30分 (75才) (肝臓癌)
死没地	大日本帝国 D県荒川郡夏川村大字乾字川向三番屋敷町 [REDACTED] 番地 (現・乾町大字乾字甘田町)
戒名	[REDACTED]院 [REDACTED]居士
墓所	真言宗大本山山王院華嚴寺墓地 (D県荒川郡乾町川中島寺下 95-1)
血液型	O型
肌色	色黒
目色	オッドアイ (右：紺、左：赤茶)
髪色	黒→白 (白髪少なめ)
利き手	右
身長	170cm
性別	男
出身校	〇〇の寺子屋 D県立尋常中学校 帝国大学文学部英文科卒業
称号	文学士
主君	樗平宗成
職業	庄屋 川山町会議員
居住地	下総国荒川郡川中島村丙内 磐城国荒川郡川中島村丙内(国分割) 新田県川中島村丙内(廃藩置県) 平県川中島村丙内(第一次府県統合) 磐前県川中島村丙内(県改称) D県川中島村字丙内1 2 2番地(第二次府県統合)



(甲山宗治郎家所蔵)

	D 県荒川郡川中島村字丙内 1 2 2 番地(郡区町村編制) D 県荒川郡大笹村大字川中島字丙内 1 2 2 番地(町村制) (以上、現・D 県荒川郡乾町大字川中島字丙内 1 2 2 番地)
栄典	苗字佩刀 従四位勲四等男爵
言語	日本語(東関東弁)
宗教	仏教(真言宗) 真言宗大本山山王院華嚴寺(D 県荒川郡乾町川中島寺下 95-1)
父母	甲山宗治郎・マツ
兄弟姉妹	甲山宗治郎、井上カツ、甲山重実 (継母) 加納為爲三郎、甲山義
配偶者	(前妻) 甲山厚子 (後妻) 甲山良子
子	(前妻) 佐山ララ、勝田チナミ、甲山戌保(真朗)、甲山康孝、沢田マツ (後妻) 甲山良太郎、田原京介、甲山陽子 (養子) 甲山(高松)丁助

## 年譜

- 1849年10月27日/嘉永2年9月12日 出生
- 1852年5月5日/嘉永5年3月17日 祖父・将監芳仲没。
- 時期不明 妹・カツが生まれる。
- 1861年9月25日/文久元年8月21日 弟・重実が生まれる。
- 1863年5月29日/文久3年4月12日 祖母・春子没。
- 時期不明 小石川厚子(D 県茨城郡小石川村 小石川直雅)と結婚する。
- 1872年3月9日/明治5年2月1日 父・丁太郎が隠居し、家督を相続する。
- 1873年(明治6年)9月17日 長女・ララが生まれる。
- 1876年(明治9年)10月12日 母・マツ没
- 時期不明 父・丁太郎がサク(C 県和泉郡芦沼村 松崎右衛門の長女)と再婚する。
- 1877年(明治10年)7月13日 義父・小石川直雅没。
- 1878年(明治11年)6月4日 次女・チナミが生まれる。
- 1879年(明治12年)4月7日 弟・為義が生まれる。
- 時期不明 為義が加納護四郎\*<sup>1</sup>と養子縁組する。
- 1879年(明治12年)8月14日 義母・小石川ハツ没。



花押

(国立博物館 5447X-3)

1\* 宗治郎・義の伯父・加納東二郎か？

1880年(明治13年)5月30日 長男・真朗が生まれる。  
1883年(明治16年)2月2日 次男・康孝が生まれる。  
1884年(明治17年)2月5日 弟・爲三郎が生まれる。  
1887年(明治20年)5月30日 為義が加納護四郎と養子離縁し復籍する。  
1887年(明治20年)11月25日 三女・マツが生まれる。  
1888年(明治21年)4月23日 ララが山科徳太郎(荒川郡乾村)と結婚し、山科ララとなる。  
1889年(明治22年)6月26日 犬吠埼丁太郎(荒川郡高城村真名畑)父吉右衛門次男妻子携带入籍\*<sup>1</sup>する。丁助・ミネ(大笹村 大崎久右衛門の長女)夫妻及びマツ・ミル姉妹である。  
1889年(明治22年)7月24日 丁助一家が大笹村川中島48番地へ分家する。  
1889年(明治22年)12月5日 ララ\*<sup>2</sup>が山科徳太郎(荒川郡夏川村乾)と離縁する。  
1891年(明治24年)年3月16日 三男・良太郎が生まれる。  
1891年(明治24年)6月15日 重実が山田律子\*<sup>3</sup>(東京市神田区佐久間町)と離縁する。  
1892年(明治25年)9月29日 真朗が荒川郡夏川村大字乾字袋小路104番地へ分家する。  
1893年(明治26年)4月4日 四男・京介が生まれる。  
1895年(明治28年)1月30日 四女・陽子が生まれる。  
1895年(明治28年)5月6日 重実が荒川郡夏川村乾の某と離縁し復籍する。  
1896年(明治29年)3月30日 重実が荒川郡夏川村乾字下町36番地へ分家する。  
1899年(明治32年)1月7日午前4時 D県荒川郡新田町字古町16番地において継母・キク没。  
1900年(明治33年)4月11日 チナミが中里國太郎(山形県最上郡新庄町字小田島141番地)と結婚し、中里チナミとなる。  
1901年(明治34年)1月22日 隠居する。真朗が家督を相続する。  
1901年(明治34年)1月29日 厚子とともに荒川郡夏川村大字乾字袋小路104番地へ分家する。  
1901年(明治34年)3月5日 真朗が菊池たま(茨城県真壁郡宮川村大字冥賀26番地 菊池武侷・すゑの三女。1882年(明治15年)4月29日生まれ)と結婚する。  
1902年(明治35年)12月26日 ララが増田哲治(F県伊瀬郡昼山大字小原15番戸 増田長左衛門の長男)と結婚する。  
1903年(明治36年)5月1日午後4時 父・丁太郎没。

---

1\* どういう事情があったのだろうか？

2\* 乾町戸籍には「山科徳太郎亡妻離縁に付復帰ス」とある。意味不明。「亡」ではなく「之」か？

3\* 乾町戸籍には、「山田律子父離縁ス」とある。山田律子の父が重実自身を指すのか？山田律子の父と重実が離縁したのか？

1903年(明治36年)6月26日 京介が関谷シカ(荒川郡夏川村)の養子となり、関谷京介となる。

1903年(明治36年)12月3日 真朗がたまと協議離婚する。

1904年(明治37年)8月19日 チナミが中里國太郎と協議離婚し復籍する。

1905年(明治38年)6月2日 チナミが西宮市の弁護士・新江寅(C 県多摩郡黒羽町大字前田27番地)と結婚する。

1906年(明治39年)1月13日 真朗が阿久津ツナ(C 県多摩郡小山町128番地 阿久津忠武・ムメの次女で阿久津透の妹<sup>\*1</sup>)と結婚する。

1906年(明治39年)3月8日 孫・公雄(真朗・ツナの長男)が生まれる。

1906年(明治39年)7月15日 為義が荒川郡新田町大字新田字大町? 21番地へ分家する。

1906年(明治39年)7月20日 爲三郎が為義の戸籍に入る。

1906年(明治39年)11月22日午後7時 公雄没。

1907年(明治40年)8月1日 真朗がツナと離婚する。

1908年(明治41年)10月24日 ララが増田哲治(F 県伊瀬郡昼山大字小原5525番地)と離縁し復籍する。

1910年(明治43年)1月29日 真朗が山田アスカ<sup>\*2</sup>(C 県多摩郡馬頭町大字馬頭474番地 山田忠吾・トヨの長女。1890年(明治23年)2月20日生まれ)と結婚する。

1910年(明治43年)6月30日 孫・佐恵(真朗・アスカの長女)が生まれる。

1911年(明治44年)1月23日 マツが医師<sup>\*3</sup>・沢田倉藏(C 県西宮市乾田町384番地0号)と結婚し、沢田マツとなる。

1912年(明治45年)4月 良太郎が和歌山高等商業学校に入学する。

1912年(明治45年)6月24日 孫・愛(真朗・アスカの次女)が生まれる。

1913年(大正2年)11月27日 康孝が荒川郡大笹村大字川中島字丙内124番地へ分家する。

1914年(大正3年)5月31日 孫・治宗(真朗・アスカの次男)が生まれる。



厚子と松茂

(明治35年3月撮影)(甲山宗治郎家所蔵)

1\* 阿久津透は、佐久山甲山家の貞藏・カツの四女かつ八郎の姉・トクの夫である。

2\* 桐生女学校卒業、共立女子職業学校卒業。『人事興信録 第13版上』人事興信所、1941年、こ109頁

3\* 人事興信所編『人事興信録 第6版』人事興信所、1921年、こ32頁。



1914年(大正3年)10月26日午後8時 ララ没。  
この頃、陽子が甲山壬八郎とお見合いする。  
1916年(大正5年)3月27日 陽子が甲山壬八郎と結婚する。  
1916年(大正5年)3月17日 良太郎が和歌山高等商業学校を卒業\*<sup>1</sup>。川中島に戻り一時的に自営業\*<sup>2</sup>をする。  
1916年(大正5年)5月 孫・葵松(康孝・晋美の長男)が生まれる。  
1916年(大正5年)5月28日 孫・安男\*<sup>3</sup>(真朗・アスカの三男)が生まれる。  
1916年(大正5年)10月18日 西宮市小松町31番地において、孫・康男(甲山壬八郎・陽子の長男)が生まれる。  
時期不明 良太郎が大阪市北濱銀行行員となる\*<sup>4</sup>。  
1917年(大正6年)4月7日 真朗が戌保と改名する。  
1917年(大正6年)12月 孫・次雄(康孝・晋美の次男)が生まれる。  
1918年(大正7年)5月17日 孫・トシ(戌保・アスカの三女)が生まれる。  
時期不明\*<sup>5</sup> 甲山壬八郎がD県電燈株式会社に転職\*<sup>6</sup>？  
1919年(大正8年)5月 孫・秀雄(康孝・晋美の三男)が生まれる。  
1919年(大正8年)8月19日 北濱銀行が倒産。これに伴い良太郎は第一銀行に転職し西区支店(大阪市)に務める。  
1919年(大正8年)7月23日 D県荒川郡夏川村大字乾字袋小路104番地\*<sup>7</sup>において、孫・トミ(壬八郎・陽子の長女)が生まれる。  
1920年(大正9年)7月24日 良太郎が坂東ヒデ(大阪府西成郡下津町三番町320番地の1坂東長爲三郎・タミノの長女)と結婚する。  
1920年(大正9年)8月23日 孫・芳子(良太郎・ヒデの長女)が大阪府西成郡大正町大字大正655番地にて生まれる。

---

1\* 和歌山高等商業学校編『和歌山高等商業学校一覧(自明治45年至大正2年)』和歌山高等商業学校、1912年、145頁に第1学年乙組として、同『同(自大正2年至3年)』同、1913年、158頁には第一学年丙組として、同『同(自大正3年至4年)』同、1914年、154頁には第二学年丙組として、同『同(自大正4年至5年)』同、1915年、144頁には第三学年丙組として、記載されている。甲山康男『この道一筋に』4頁によれば、天保学院大学卒業とあるが、1942年までの卒業生(卒業生)が網羅されている天保学院編『天保学院卒業生名簿 昭和17年版』天保学院、1942年には記載がない。

2\* 和歌山高等商業学校編『和歌山高等商業学校一覧(自大正5年至6年)』和歌山高等商業学校、1916年、265頁。

3\* 人事興信所編『人事興信録 第13版上』人事興信所、1941年、こ109頁『同 第14版上』人事興信所によると、天保学院大学経済学部卒業。

4\* 和歌山高等商業学校編『和歌山高等商業学校一覧(自大正6年至7年)』和歌山高等商業学校、1917年、275頁。和歌山高等商業学校編『和歌山高等商業学校一覧(自大正7年至8年)』和歌山高等商業学校、1918年、225頁。和歌山高等商業学校編『和歌山高等商業学校一覧(自大正8年至9年)』和歌山高等商業学校、1919年、233頁

5\* 康男が西宮で生まれたことが意味することとして考えられる可能性は、①康男出生時は上野呉服店員だった、②たまたま西宮で生まれただけ、③その他の理由だが、①が正しい場合は、D県電燈への転職がこの時期であったと推定できる。

6\* D県電燈の監査役に陽子の兄・甲山戌保がいることを考慮すると、結婚を機に甲山壬八郎を戌保の斡旋で転職させた可能性が考えられる。

7\* 陽子の両親・甲山宗治郎・厚子夫妻が1901年(明治34年)1月29日に長男・甲山戌保戸籍からなぜか分家した住所。妻の実家で出産するためか？あるいはD県電燈の勤務と関係があるのだろうか？

1921年(大正10年)1月28日 孫・禎亮\*<sup>1</sup>(戌保・アスカの四男)が生まれる。

1922年(大正11年)8月27日午後6時 義母・カツ没。

1922年(大正11年)11月 孫・善隆(康孝・晋美の四男)が生まれる。

1923年(大正12年)1月29日 孫・次子(壬八郎・陽子の次女)が生まれる。

1923年(大正12年)3月14日 孫・忠隆(良太郎・ヒデの次女)が大阪府西成郡下津町下三番315番地にて生まれる。

1924年(大正13年)9月16日午後7時30分(享年75才)。

## 人物

非常に温厚で社交的な性格だった。

人の悪口を言わないことで有名だった。

好物は蕎麦とうどん。

好きな歌は♪昭和かれすすき。

## 言行録

「〇〇〇〇」

## 逸話

## 受賞

従四位勲四等男爵

感謝状(丸山税務署より)

## 親族

---

<sup>1</sup>\* 天保学院大学経済学部予科。1945年(昭和20年)7月10日午後7時20分、イギリス領北ボルネオ(North Borneo)ミリ州(Miri)ラワス河(Lawas)上流国境山脈付近にて死亡。

系図

サンプル

